

組織目標評価報告書（平成21年度）

部局名： 教育学研究科
教育学部

組織目標		達成状況(成果)		
教育	<p>1. 優秀な学生確保 学部・研究科ともに、優秀な学生確保のための広報パンフレットの作成、HPの充実、改修後の建物を活用したオープンキャンパスの充実、ならびに教育学研究科の入試制度の改善の方向性を検討する。</p> <p>2. 学部・研究科の教育活動の実質化の推進 ①学部では、DPを明確化し、教職実践演習導入に向け教員養成コア・カリキュラムの改善を図る。 ②教育学研究科では、DPを明確化し、研究指導體制の充実を図る。また、交流協定を実質化し、国際化を推進する。 ③FD活動の成果を共有するために、教授会で定期的に研修会を企画する。</p> <p>3. 教職支援活動の充実と全学教員養成カリキュラムの構築</p>	<p>●学生確保に繋がるよう、AP等解りやすく工夫を凝らしたリーフレット版広報パンフレットをAO、学部、大学院それぞれ作成した。HPについては、News & Topics及びInformation欄を新設するなど使いやすいトップページへとリニューアルした。また、8月に開催したオープンキャンパス及びホームカミングウィークには、例年の1.5倍以上(2,200人)もの学生が訪れ、受験者も増加した。教育学研究科の入試制度の改善は、方向性を定める検討材料とするため、改組後2年間の状況の分析作業を研究科長室を中心に行っている。</p> <p>●学部では、来年度入学生から実施の教職実践演習について課程認定申請を行った。また、教員養成コア・カリキュラム改訂PJを設置し1年を掛けて検討を進めて改訂作業を終え、平成22年度の実施に向けて教授会等で全教員に説明するとともに、文部科学省高等教育局教員養成企画室にモデルケースとして紹介した。また、全学教職コア・カリキュラムの構築と並行して、教職実践ポートフォリオPJを設置し、「教職実践ポートフォリオ」を改訂し具体的な行動目標指標を構築し到達目標を明示した。このポートフォリオについては、教職実践演習の履修カルテ例として、文部科学省初等中等教育局教職員課から全国に紹介された。</p> <p>●教育学研究科では、O-NECUSプログラムによる東北師範大学との交流を実施し、H21年度についてもダブルイグラー2名、短期留学2名の学生を受け入れた。またJICAからガーナ国の教員研修の依頼を受け、2月にはガーナ国文部事務次官の訪問、南アフリカからの国際交流による教員雇用など国際化を推進している。</p> <p>●FD活動の成果を共有するために、教授会を活用し研修会を年3回実施した。5月には、FD研修会「専門職養成ワークショップ」を文部科学省高等教育局藤原大学振興課長をお招きし開催した。3月27日には、教員養成コア・カリキュラムで学んだ学生が卒業し、教職大学院の第1期生が修了するのを期に、教職大学院の成果を踏まえた「教員養成の明日を築く」と題した教育学研究科シンポジウムを開催した。</p> <p>●平成21年度大学教育推進GPIに「総合大学が担う特色ある教員養成の質保証」が採択され、本GPIにより、教職課程の改善・充実に向けた全学教職コア・カリキュラムの構築、組織的指導體制の確立、教職実践演習の開講や教育実習に係る実践的指導の充実を図ると、附属教育実践総合センターを組織再編し、全学組織である教師教育開発センターを設置すべく準備委員会を設置し、鋭意準備を行っている。全学教職課程コア・カリキュラムについても、準備委員会を中心に4月導入に向けて構築作業を行っている。</p>		
	達成度： ④ 3 2 1			
	研究	<p>1. 研究組織である学系の機能を生かした科研申請率・獲得率の向上策をとる</p> <p>2. 学系単位でのプロジェクト研究をたて、教育学研究科独自の研究を推進する</p> <p>3. 附属学校園と連携して、教育実践に関する共同研究を推進する</p>	<p>●科研申請率・獲得率の向上については、実務家教員の増加や特任教授制度の導入の影響もあり一挙に向上することは困難であるが、学系ごとに若手研究者への支援に取り組み長期的に成果を挙げるように支援している。</p> <p>●教育心理学講座寺澤孝文教授は、「不登校児の学習意欲を高めるマイクロステップ学習支援」を研究テーマとして研究推進しており、高い社会的貢献度を持つ研究として日本認知心理学会から優秀発表賞を受賞した。</p> <p>●専門科学の領域においては、理科教育講座石川彰彦准教授らが構成する研究グループが、新型インフルエンザや強毒型の鳥インフルエンザにも有効とされている抗インフルエンザ薬タミフルの新規合成法の開発に成功し、有機化学分野トップレベルのJ.Org.Chem誌(IF = 3.95)へ掲載され、その内容は当該分野の進展に大きく貢献するものであると高い評価を受けている。</p> <p>また、数学教育講座成瀬弘教授は、同変シューベルトカルキュラスという数学の分野において、励起ヤング図形という新しい手法を開発し、アメリカ数学会誌Transaction of the Amer. Math. Soc.(5-year 2003-07 impact factor 1.068)に29頁にわたる論文が掲載され国際的に高い評価を得ている。また、その成果により、日本数学会の代数学分科会の代数学シンポジウムにおいて招待講演に招聘された。</p> <p>●教育学研究科一貫教育専門委員会を設置し、附属学校園12年一貫教育委員会と連携して、「幼小中一貫教育」をテーマに教育実践に関する共同研究を推進した。</p>	
達成度： ④ 3 2 1				
社会貢献		<p>1. 7課程認定学部との連携のもと教育学部が中心となり、多種多様な教員免許状更新講習講座を開講する。</p> <p>2. 教育の充実・発展に寄与することを目的に岡山市教育委員会と連携協力に関する協定を締結する。</p> <p>3. 附属学校園12年一貫教育の推進を図り、地域を先導する教育実践モデル校としての役割を果たすため、附属4校園一貫教育委員会に加え教育学部一貫教育専門委員会を設置する。</p>	<p>●7課程認定学部との連携のもと教育学部が中心となり、多種多様な教員免許状更新講習講座(必修8講座:566名、選択70講座:1729名)を開講した。講習後の事後評価アンケートにおいても、高い評価を得ている。</p> <p>●教育の充実・発展に寄与することを目的に岡山市教育委員会と連携協力に関する協定を締結した。</p> <p>●岡山県・岡山市・倉敷市各教委と連携した、学生のボランティア活動・インターシップ授業等運営を支えるスクールボランティアビューローを立ち上げるための設置協議を各教委と行っている。</p> <p>●附属学校園12年一貫教育の推進を図り、地域を先導する教育実践モデル校としての役割を果たすため、附属4校園一貫教育委員会に加え教育学部一貫教育専門委員会を設置した。附属学校園12年一貫教育委員会は、9月24日開催の委員会から教育学部一貫教育専門委員会との合同委員会に発展させ、一貫教育の研究テーマを「考える力を育てることばの力」として3校園が取り組む方向性を定めた。本合同委員会には、岡山市教育委員会から指導主事も参加しており、地域を先導する教育貢献が期待されている。</p>	
	達成度： ④ 3 2 1			
	客観的指標	事項	前年	今年の目標
学部入試倍率		2.5	2.5	2.8
大学院充足率		100	100	
科研費申請率		59.20%	10%増	71.30%
科研費採択率				
共同研究件数		2件	2件	
受託研究件数		4件	4件	
留年・休学・退学者数		学部:44・12・2 研究科:10・12・6	(今年の状況)	
就職率	90%	90%		

【自己評価総括記述欄】※目標及び指標の達成状況について総括し、次年度に向けた改善点を記載してください。

教員養成6年制等教員の資質向上に向けた抜本的な見直しに係る検討状況を注視しつつ、教育学研究科の教育研究体制の充実に向けた改善に取り組む。また、全学組織である教師教育開発センターの設置とともに、設置後の目標達成に向けて組織運営体制の強化に取り組む。

【達成度】4:非常に優れている 3:良好である 2:概ね良好であるが改善の余地あり 1:不十分であり改善を要する

注)本様式は一般的な学部・研究科用であり、部局の特性に合わせ設定した領域・指標により修正してください。

[組織目標一覧へ](#)